

グローバル・コミュニケーション研究所 2018年度 活動概要 2018.4～2019.3

| | |
|-----|---|
| 著者 | グローバル・コミュニケーション研究所 |
| 雑誌名 | グローバル・コミュニケーション研究 |
| 号 | 8 |
| ページ | 183-185 |
| 発行年 | 2019-03 |
| URL | http://id.nii.ac.jp/1092/00001791/ |

グローバル・コミュニケーション研究所
2018年度活動概要
〈2018.4～2019.3〉

刊行物

- 『GCI キャンパス・レクチャー』第6号(2017年度講演会報告集)
2016年度アメリカ大統領選のソーシャル・メディア、フェイク・ニュース、パブリック・アーギュメント
(ジョン・M・ケパート III 世 John M. Kephart III)
危機言語に対する言語意識向上のために
—— 濟州語の事例から (梁彰容)
グローバル・リテラシーの向上のために
—— グローバル化を目指している濟州島の大学生の事例から考える (高龍珍)
- 近代後期日本における琉球諸語
(パトリック・ハインリッヒ Patrick Heinrich)
- 母語への意志
—— アイヌ語復興と言語的モダニティ
(マーク・ウィンチェスター Mark Winchester)
- ヘイトスピーチ解消法にみる法と言語の諸問題 (橋内武)
- 抵抗の音楽——私とショパン
—— 在日韓国人ピアニストによる語りと演奏 (崔善愛)
- 「留学生と語る」オープンディスカッション
(サウクエン・ファン Sau Kuen Fan)
- 日米交歓ディベート報告:
日本はベーシックインカム制度を導入すべきである。是か非か。
(田島慎朗)

研究プロジェクト

- 大学教育におけるデジタル・メディア・リテラシー
代表: 金暲和 (本学国際コミュニケーション学科准教授)
- 外語大における多文化背景をもつ学生の言語管理研究——言語環境と言語学習の実際
代表: 今千春 (本学グローバル・コミュニケーション研究所研究員)
- デイバート教育がもたらすアイデンティティ形成・政治信条への効果
代表: 田島慎朗 (本学国際コミュニケーション学科准教授)
- 新興民主主義国家における大統領弾劾成立の比較分析——代表制民主主義の安定と健全なガバナンスの構築に向けて
代表: 舩方周一郎 (本学イベロアメリカ言語学科講師)

GCI キャンパス・レクチャー・シリーズ講演会

- 第50回(2018年5月31日)「I Can. I Must. I Will. 私はできる、私はやらなくては、私はやる。」本学ボランティアセンター、体育スポーツセンター共催
DeeDee Trotter (EF オリンピック・アンバサダー)
司会: 矢頭典枝 (本学英米語学科教授)
- 第51回(2018年6月26日)「様々なステークホルダーが連携して取り組む地域づくり～ベトナム・農村部の挑戦～」
伊能まゆ (NPO Seed to Table 代表)
司会: 岩井美佐紀 (本学アジア言語学科教授)

グローバル・コミュニケーション研究所 2018 年度活動概要

- 第 52 回 (2018 年 7 月 24 日) 「メディアと音楽にこめる沖縄～民が織りなす文化芸術・ことば・歴史の調べ～」
宮里英克 (クマノミデザイン代表)
司会: 豊田聡 (本学国際コミュニケーション学科准教授)

- 第 53 回 (2018 年 10 月 24 日) 〈日韓グローバル・ダイアログ〉「激動する世界と日韓関係——次世代へのメッセージ」 SETO フォーラム (ソウル東京フォーラム) 協賛
パネリスト:
李洙喆 (GH ホールディングス会長、SETO フォーラム理事)
宮内孝久 (本学学長)
司会: 阪田恭代 (本学国際コミュニケーション学科教授)

- 第 54 回 (2018 年 11 月 1 日) 「移民への教育政策——イギリス、フランス、EU での取り組み——」
小山晶子 (東海大学教養学部国際学科准教授)
司会: 河越真帆 (本学国際コミュニケーション学科准教授・当研究所副所長)

- 第 55 回 (2018 年 11 月 15 日) 「Pakistan: Achieving Peace, Stability and Progress ～パキスタンの平和、安定、発展を目指して～」
アリ・アンサー・ザイデイ (駐日パキスタン・イスラム共和国大使館臨時代理大使)
進行: 木村昌人 (本学国際コミュニケーション学科非常勤講師)